

消防ヒヤリハットデータベース事例回答シート

【事例概要について】



1. 事故・ヒヤリハットの別	ヒヤリ
2. 体験した事例の名称	救急事案で遮断機・警笛のない線路を徒歩で横断直後に列車が通過した。
3. 体験した事例の中心的要素	夜間の救急事案で傷病者宅から約 150m の距離をストレッチャーで曳航中に線路を横断した。 国道と平行に線路があり、列車のライトが国道を走る車両であると誤認したため線路横断を開始した。3名の救急隊員全てが誤認した。
4. 体験した事例の原因・理由	夜間で照明もなく列車が確認できなかったこと。 警笛・遮断機があるものと思い込んでいたこと。

【体験した事例の直接的な原因について】



1. 体験した事例の直接的な原因	状況判断に問題があった。
------------------	--------------

【体験した事例について】



1. 発生日時	平成 21 年 5 月 15 日 午後 8 時頃
2. 発生した当時の天候	曇
3. 発生した活動現場	屋外：三次市青河町
4. 体験した事例の種類	回答者が、自分自身で負傷した。
5. 事故の程度（ヒヤリハットの場合、仮に負傷したときの程度）	死亡していた（させていた）だろう。
6. どのようなことが起きたのか（起きそうになったのか）	交通事故、
7. 事例体験時の活動	救急現場活動中期、 []
8. （7の活動中） どのような作業中に発生したか	その他：現場から車内収容まで
9. 同様の体験は、これまでにどの程度の頻度で体験していますか。	初めて体験した。

10. ヒヤリハット体験当事者の属性（回答者は当事者A）

○当事者A	年齢[46]歳、勤続年数[27]年、現場経験年数[27]年、階級[消防司令補]、同様の活動[過去に1,2回程]、任務[車長]
○当事者B	年齢[36]歳、勤続年数[19]年、現場経験年数[19]年、階級[消防士長]、同様の活動[過去に1,2回程]、任務[機関員]
○当事者C	年齢[35]歳、勤続年数[17]年、現場経験年数[17]年、階級[消防士長]、同様の活動[初めて]、任務[隊員]
その他 (当事者が4人以上の場合)	

11. 事例発生の経過。

	誰(何)が	なにをした	その他・備考など
経過1	車長A	ストレッチャー左側(足側)を曳航	
経過2	隊員C	ストレッチャー右側(足側)を曳航	
経過3	機関員B	ストレッチャー(頭側)を曳航	
経過4	全員	線路手前で車両の照明を確認し線路横断を開始	
経過5	〃	横断中に列車の警笛を聞き、列車であると確認する	
経過6	〃	線路内から出て数秒後に列車が通過	
経過7			
経過8			
経過9			
経過10			

【その事例発生時の状況について】



- 事故の場合 : 事故が起きたのはどうしてだと思うか？
 ヒヤリハットの場合 : ヒヤリハットで済んだのはどうしてだと思うか？

たまたま、負傷事故にならなかった。

○心理・体調について

a. あせりを感じていた

・早く、現場到着や、活動をしなければならないという“あせり”を感じていた。	いいえ
・被害拡大が消防活動を上回っており“あせり”を感じていた。	いいえ
・周辺の野次馬などにより“あせり”を感じていた。	いいえ

b. 注意力が欠如していた

・1つの事象に集中し、他の事象への注意力を欠いた。	はい
・活動終息(鎮火等)や活動内容が些細だったため注意力を欠いた。	いいえ
・体調不良や疲れにより注意力を欠いた。	いいえ

c. 経験・知識が不足していた。

・活動内容が、自己の能力や技量を超えていた。	いいえ
・活動中に起こりうる危険について認知していなかった。	いいえ
・活動に対する経験が不足していた。	いいえ

d. 心身の不調があった

・体調が悪かった。	いいえ
・悩み事があった。	いいえ

○装備・資機材について

e. 資機材の故障・不具合があった。

・装備・資機材自体に問題があった。	いいえ
・装備・資機材の使用 방법이誤っていた。	いいえ
・装備・資機材の対処能力を超えていた。	いいえ
・必要とする装備・資機材がなかった。	いいえ

○活動環境について

f. 障害物や自然環境（雨・濃煙）によって視界がさえぎられた。

・障害物（建物等）のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ
・特異環境（煙、暗闇、降雨等）のため周囲の状況が見えなかった。	はい

g. 行動しにくい環境だった。

・狭隘な場所であった。	いいえ
・暑かった（寒かった）。	いいえ
・野次馬が多かった。	いいえ
・現場周辺の地理に不案内だった。	いいえ

h. 足場が悪かった。

・足元が躓いたり滑りやすかった。	いいえ
・足元の強度が不足していた。	いいえ

○指揮・管理について

i. 適切な指示が得られなかった（適切な指示を与えられなかった）。

・活動指示が得られなかった。（無線が通じない等。）	いいえ
・指示内容に誤り・偏りがあった。	いいえ
・指示内容が実施困難であった。（周辺環境に、隊員技量の把握に欠けた。）	いいえ

k. 関係者間の情報伝達・役割分担が不十分だった。

・隊員の連携が不十分だった。	いいえ
・隊員が不足していた。	いいえ

○その他

l. その他の理由があった。

いいえ

・発生日時 : 平成21年5月15日 午後8時頃

経過	現場の状況	隊員A	隊員B	隊員C	備考
		車長／消防司令補 ・年齢 46 歳 ・勤続 27 年 ・現場 27年 ・同様の活動:過去に1,2回程	機関員／消防士長 ・年齢 36 歳 ・勤続 19 年 ・現場 19 年 ・同様の活動:過去に1,2回程	隊員／消防士長 ・年齢 35 歳 ・勤続 17 年 ・現場 17 年 ・同様の活動:初めて	
出動指令 出動途上 現場到着 活動初期 活動中期 活動後期	夜間の救急事案				
		現場出場し作業を開始			
		ストレッチャー左側(足側)を曳航	ストレッチャー右側(足側)を曳航	ストレッチャー(頭側)を曳航	
	夜間で照明もなく列車が確認できなかった	線路手前で車両の照明を確認			列車のライトが国道を走る車両であると誤認
		線路横断を開始			警笛・遮断機があるものと思い込んでいた。
		横断中に列車の警笛を聞き、列車であると確認する			
		線路内から出て数秒後に列車が通過			

◎ヒヤリハットで済んだのはどうしてだと思うか？
 ○直接的な原因: 状況判断に問題があった。
 ・たまたま、負傷事故にならなかった。

◎ヒヤリハットが起きた背後要因
 (心理・体調について)
 ・1つの事象に集中し、他の事象への注意力を欠いた。
 (活動環境について)
 ・特異環境(煙、暗闇、降雨等)のため周囲の状況が見えなかった。